

クリスマスコンサート

12月5日土曜日午後から、入院されている患者様やご家族に楽しいひとときを過ごしてもらうため、12回目のクリスマスコンサートを開催致しました。今年も職員の協力により、中庭のイルミネーションや外来フロアにコンサート会場の飾りつけを行い、クリスマスにふさわしいステージを設定することができました。

まず、花田院長より来場された方への挨拶で始まりました。オープニングは、つくし保育園児達による楽器遊びとダンスでした。可愛らしいダンスに合わせて、患者様も手拍子をしたり、口ずさんだりされていました。また、太田事務部長・上別府看護部長扮するサンタも登場し、会場は一気に和やかな雰囲気になりました。

その後は、看護学生の合唱や看護師長会with太田事務部長によるハンドベル、初めての参加となる鹿児島大学うた部によるコーラス、第1循環器内科の毛利医師によるピアノ演奏と続き、最後は、毎年ご出演頂いているサザンウィンド吹奏楽団による心温まるクリスマスソングメドレーでした。様々なコスチュームで工夫を凝らした演出、演奏に、会場の皆様も聴き入り、たくさん拍手が沸き起こっていました。

コンサートの余韻が残る中、患者様・ご家族にはティーパーティの会場に移動して頂き、栄養士や調理師によるデコレーションスイーツや果物、温かい飲み物などをゆっくり堪能して頂きました。

私達も患者様の笑顔に癒やされ元気を頂きました。今後も微力ながら職員一同で努めて参りたいと思います。

(文責：看護師 藤崎 佑貴子)



連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2016.2 vol.118

平成27年度 脳卒中看護エキスパートナース研修を開催して

鹿児島医療センターでは、脳卒中の専門施設として脳卒中看護エキスパートナース研修を開催しております。今年度は、平成27年11月30日から12月7日までの6日間、院外12施設12名、院内3名の参加による研修を開催いたしました。

研修は、脳卒中看護の質の向上を図るため、専門的知識、技術、態度を習得し、より専門性の高い看護実践ができる能力を育成することを目的に、脳卒中急性期の臨床判断や、病態の重篤化回避のモニタリングとケア、セルフケア能力向上の回復支援、機能障害に応じたリハビリテーション看護、再発予防のための健康管理・家族支援、チーム医療及び地域連携の推進などを講義や演習を通して学べるようにしました。専門的知識・技術を習得するために、医師や脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、救急看護認定看護師、医療ソーシャルワーカーや言語聴覚士より講義がありました。受講生より「講義の中で実際の事例を聞き、病態・専門的知識や基本的なケア内容を学ぶ事ができた」という感想が聞かれました。また、脳卒中病棟、SCU、ICUの実習では病態に沿った治療や、急性期にある患者の看護ケアやモニタリングを学ぶことができたのではないかと思います。また、手術室見学では、内頸動脈狭窄症に対する手術見学を行いました。ほとんどの研修生が日頃見ることができないため、先生方や手術室スタッフの丁寧な説明を受け、「術後の看護に活かせる」という感想が聞かれました。

事例検討では、これまでの経験と今回の学びを活かし、事例を通して看護を語ることで、脳卒中患者・家族を生活者として捉え、急性期・回復期・維持期それぞれに必要な看護や患者家族支援の在り方、支援システムを互いに知る場となり、今後転院時に継続するために必要な情報内容を知る良い機会となりました。また、脳卒中看護は地域との連携が必要であり、研修生同士顔の見えるネットワーク作りになったのではないかと考えます。

脳卒中看護エキスパートナース研修生は、脳卒中患者の看護実践を通して役割モデルを示すことができ、役割モデルとしてリーダーシップを発揮されることを期待しております。

(文責：東5階病棟師長 椋木 里美)



第6回 心臓・血管病市民公開講座 元気で長生きしやんせ ～心臓病と仲良く付き合う方法～

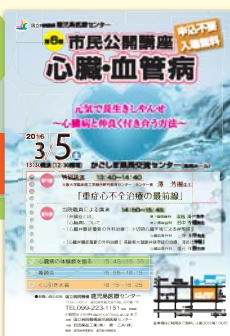
開催日：平成28年3月5日(土) 13:30 開演 (12:30 開場) ~ 16:25 まで

場 所：かごしま県民交流センター（県民ホール）

特別講演：『重症心不全治療の最前線』

大阪大学臨床医工学融合研究教育センター長：澤 芳樹 先生

【お問い合わせ】：TEL099-223-1151(代表) ※予約不要・入場無料



■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター**（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・鷲頭・吉留・山口・櫻木・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・杉本

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。



「認定看護師の活動内容」



緩和ケア認定看護師 川畑 博美

私は今年7月に緩和ケア認定看護師の資格を取得し、現在がん系の混合病棟に勤務しています。また緩和ケアチームの一員として組織横断的活動を通し、自分が介入したことで患者・家族が気持ちを整理し前向きに治療に臨めたり、看護スタッフが自ら考え、自律し主体的に動く姿を見た時にやりがいを感じています。

がんの告知、集学的治療、症状緩和を中心におこなう時期など患者さん個々で状況や反応は多様です。当院は地域がん拠点病院として、どの段階にある患者さん家族に対してもそのニーズをとらえ応えていく役割があります。また緩和ケアというがんの印象が強いですが、その人の思いや疾患のプロセス、価値観を受け止め、関係を作る意図的なコミュニケーションと客観的な立ち位置で先を見通しながら、真のニーズを明らかにしていくことはどんな疾患・治療・時期でも基本になる看護だと考えています。援助者としてその人自身に成り代わることはできないという前提の上で、理解しようと向き合い、語りを聴くステップがなければその人の問題は何か、どこに支援が必要なのかは見えてきません。また、いくら専門的知識・技術をもっていても認定看護師一人では限界があり、スタッフ育成がとて重要になってきます。目に見えて効果が明らかなことばかりではなく、これでよかったのか・何もできなかったと看護スタッフ間でもややもした思い・無力感が残る事例もあります。しかし、だからこそ実践できたことを言語化し、チームで支え合う風土作りが緩和ケア認定看護師の調整すべき大事な役割であると考えています。

当院は循環器、脳卒中、がんの三本柱の専門性を打ち出している病院でもあり、計12名の認定看護師が所属しています。様々な領域の認定看護師とディスカッションする場もあり、院内スタッフの教育と看護の質向上につなげられるよう検討しています。多領域の認定看護師とのつながりは活動をしていくうえでの大きな強みであり、今後必要な時にはコラボレーションしたり組織の改革をしていきたいと思っています。

最後に、認定看護師は知識や技術があっても相談され活用されなければ十分に役割を果たすことはできません。いつでも現場の声が届く、敷居が高すぎない存在を目指し今後、自分の人間性も高めていきたいと思っています。



婦人科
唐木田 智子

新任紹介

1月より婦人科医師として勤務しています。鹿児島医療センターで勤務するのは初めてになります。築詰部長のもと婦人科腫瘍等の症例数も増えていると伺い、以前よりここで働けるのを楽しみにしておりました。日々忙しい診療体制ですが、スタッフの皆様や他科の先生方とも協力して、地域のみなさまに貢献できるよう精一杯頑張りたいと思います。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

第4回 救急医療懇談会 開催報告

“顔の見える救急医療”をコンセプトに始めました鹿児島市消防局との合同救急医療懇談会も、今回平成27年12月2日（水）の開催で4回目となりました。年末の大変お忙しい時期にも関わらず消防局からは中村救急係長を始め救急隊の方16名に参加して頂きました。当院からも医師、研修医を始め看護師、コメディカル、事務等々、64名の参加となりました。

講演では、まず心臓血管外科の寺園和哉医師から「急性A型大動脈解離に対する新たな治療」について、オープンステントグラフトを用いた弓部大動脈置換術を実際の手術現場の動画を用いて分かりやすく解説して頂きました。救急隊の方もその術中の様子を、大変興味深そうに視聴しておられました。

次に救急看護認定看護師の伊藤由加副看護師長による「早期治療に向けての取り組みと連携」についての講演では、急性心筋梗塞と脳梗塞治療における当院の『ちょっとした自慢話』を熱く語って頂きました。特に当院救急部門の迅速な専門医チームと病棟看護師・コメディカル等の専門チームによる後フォローの連携体制は、救急隊の方の更なる信頼を得ることが出来たと思います。

また、司会の森山統括診療部長や会場からは中島循環器内科部長等による当院のアピール合戦もあり、会場を大いに盛り上げて頂きました。

最後に消防局の中村徳明救急係長からは、今年1月から11月までの救急車搬送件数を鹿児島市内の主要病院毎にその特徴を踏まえつつ楽しく解説して頂きました。やはりこれからは他の病院との競合ではなく、それぞれの特長を生かした病院間の連携を強化していくことが重要であると再認識できました。

今年は春先から患者数が大幅に落ち込み、急性期病院にとっては大変厳しい状況が続いていましたが、先月後半から徐々に増えてきており、これから冬場に向けては特に脳・心臓・循環器系の救急患者が増加してきます。

このような懇談会を通してそれぞれの立場から意見を出し合うことで、ますます救急隊の方との関係を密にし、救急患者のスムーズな受入体制の強化を図り、鹿児島の救急医療のレベルの向上・発展に貢献していきたいと考えています。

(文責：経営企画室長 三宅 修二)

